

2022年2月14日

各位

会社名 株式会社Kaizen Platform  
代表者名 代表取締役執行役員 CEO 須藤 憲司  
(コード: 4170、東証マザーズ)  
問合せ先 経理財務部部長 朝井 秀尚  
(ir@kaizenplatform.com)

### 通期業績予想と実績の差異、及び営業外費用（持分法による投資損失）の計上に関するお知らせ

2021年11月12日に公表しました2021年12月期（2021年1月1日～2021年12月31日）の連結業績予想と実績に下記の通り差異が生じました。また、2021年12月期において、下記の通り営業外費用を計上いたしましたのでお知らせいたします。

#### 1. 2021年12月期の連結業績予想数値と実績の差異（2021年1月1日～2021年12月31日）

	売上高	E B I T D A	営業利益	経常利益 又は経常損失（△）	親会社株主に 帰属する当期 純利益又は純 損失（△）	1株当たり 当期純利益又 は純損失（△）
前回発表予想 （ A ）	2,240	170	0	△80	△140	△8円85銭
実績 （ B ）	2,260	221	45	△25	△101	△6円41銭
増減額 （ B - A ）	20	52	45	54	38	2円44銭
増減率 （ % ）	0.9	30.4	0.0	—	—	—
（参考）前期実績 （2020年12月期）	1,686	119	23	36	107	13円84銭

#### 2. 差異の理由

UX/DXソリューションでは、クライアントのDX推進のニーズを的確に捉え、前回発表時点の想定よりも順調に新規クライアントの獲得及び既存クライアントの継続が進捗いたしました。動画ソリューションでは、コロナ禍において進みつつある動画活用の需要をとらえ、積極的な営業活動を行った結果、ほぼ前回発表予想通りに進捗いたしました。そのため、売上高は2,260百万円と前回発表予想を上回りました。

営業利益については、当社及び株式会社ディーゼロにおいて来期の成長に向けた先行投資を行いつつも、コストコントロールを実行した結果、前回発表予想を上回る45百万円となりました。

経常損失については、為替差損や持分法による投資損失等の営業外費用の計上はあったものの、前回発表予想を上回る△25百万円となりました。

親会社株主に帰属する当期純損失については、法人税、住民税及び事業税の計上及び繰延税金資産の取り崩しが前回発表時点の想定よりも発生いたしました。前回発表予想を上回る△101百万円となりました。

3. 営業外費用（持分法による投資損失）の内容

当社の持分法適用会社である株式会社DX Catalyst の決算報告書等に基づき、2021年12月期第4四半期累計期間におきまして、持分法による投資損失14百万円を営業外費用に計上いたしました。

以 上